

新火葬場地域経過報告会(根本地域)でのおもな意見

9月18日(土)根本公民館にて開催した、新火葬場地域経過報告会にご参加いただき誠にありがとうございました。報告会でお聞きしたおもなご意見とその回答を次のとおりまとめましたのでご覧ください。

日 時 平成22年9月18日(土)午後7時～

場 所 根本公民館

参加者 46人

○質問 松坂町の候補地は道路事情に問題があると思います。248号バイパスは西高付近で常に渋滞しているので、更に悪化するのではないかと心配です。松坂町1丁目及び3丁目の交差点での渋滞への対応として、松坂町3丁目と北丘町をつなぐ道路を造ることはできませんか

渋滞箇所については、右折箇所では車線を増やすなどの改良を検討していきませんが、全市的な道路整備は難しく、新しい道路の建設については現在のところ考えていません。

○質問 他の候補地と比べて、松坂町の候補地だけ周囲に多くの住宅があります。現段階で松坂町を候補地から削除できませんか。

候補地はそれぞれ周辺状況が違います。検討委員会でも、周辺状況は選定の重要な要素と捉え、2回の現地確認を行い4候補地について検討を進めていく予定です。

○質問 検討委員会の委員がこの場に出席していないのは納得できません。この場で地元住民の生の声を聞く必要がありませんか。

検討委員会へは、報告会でいただいたご意見はもちろんのこと、ファックスやメールでいただいたご意見についても、事務局よりつぶさに報告しています。委員会では第1回報告会で出た地元の皆さんの意見についても、検証するために2回目の現地調査を行いました。

○質問 今後どのように選定が進められるのですか。

絞り込みの方法については、現在委員会で検討している段階です。今後は、委員会から候補地の中で最も相応しいと考えられる場所について答申を受け、最終的に市が建設地を決定します。

○質問 建設検討委員会はどのようなメンバーで構成されているのですか。

ホームページでも公開していますが、学識経験者として人間環境大学の副学長、中部大学の先生、名古屋産業科学研究所の研究員の3名の方、また、市民委員として、区長会の代表、社会福祉協議会の理事、河川自然環境保全復元団体の代表の方で構成されています。なお、候補地が決定した後は、候補地の区長さんにも加わって頂き、最終的には7人の委員で検討を進める予定です。

○質問 今回の説明は、前回の内容を少し詳しく述べられただけで話しが進んでおらず、せっかく都合をつけて参加したのに残念です。他の候補地ではどのような意見が出たのかももう少し詳しく話してください。

今回の報告会は、前回質問の多かった点についてさらに詳しく説明したものです。当該地区でいただいたご意見につきましては、前回同様、町内回覧をさせていただきます。また、他の地区でのご意見等については、ホームページに掲載していますのでご覧ください。

○質問 松坂町はいつから候補地にあがったのですか。

昨年8月に市役所内でプロジェクトチームを作り、新たな条件を加えて適地を探した結果、候補地として挙がってきたものです。

○質問 火葬場のような施設ができると地価が下がることはありませんか。

不動産鑑定士によると、100メートル以内にこうした施設がある場合、最大で2%ほど下落する可能性があるとのことですが、鑑定士の主観的な要素が大きいとのことです。

○質問 建設地の周囲に住む人は情情的に嫌な思いを強いられると思いますが、そのことに対して、市からなんらかの配慮はありますか。

市としては、外から直接見えないよう周囲に緑地帯を確保することや、文化施設的な外観を呈する建物にするなどの対応、また、交通状況の改良などについて配慮させていただきます。

○質問 付近には小さな子どもも多く、また、根本駅の周辺などは道幅の狭い箇所もあり、交通量が増えて事故など起きないか心配です。

火葬が行われることに伴って、交通量が増えるということもあるかと思いますが、渋滞は交通量だけではなく、右折レーンの有無や道幅の影響なども大きいと考えます。

○質問 委員会の構成委員に区長さんが加わっているとのことですが、どの地域の方ですか。各候補地から加わっていますか。

該当地域の区長さんは地元との関係もあり、候補地選定を行うことは難しいと考え、候補地と関係のない方に入って頂きました。ただし、候補地決定後は、施設や周辺状況をどうするのかといった、施設の中身の話になりますので、地元の声をお聞きするためにも地域の区長さんに加わって頂き、実際の計画作りにご意見を頂きたいと考えています。

○質問 先日の先進地見学会に参加しました。参加するまでは近くにできては困ると思っていましたが、建物や設備は従来の火葬場のイメージとは異なる立派なものでした。現場の方の説明によると、羽島市では2年に1度ほど副葬品の影響で苦情があるとのことでしたが、関市は過去6年ほどの間に1件も苦情が無いとのこと、それほど懸念する施設ではないのではないかという気持ちに変わりました。必要な施設ですので、お互い忌み嫌ってあっちへ行けというのではなく、できるだけ多くの人の総意をもって場所を決定していただきたいです。

最近の施設を直接見ていただくのが一番よく理解していただけたと考え、見学会を実施しましたが、3地区から16名の方のご参加でした。羽島市の施設については、2年に1度ほど苦情があったとのことでしたが、これは花や果物など副葬品の影響であったと聞いています。また、関市については、副葬品についての協力もあるかと思いますが、羽島市との違いとしてバグフィルターを設置していますので、これにより苦情がなかったと理解しています。

○質問 今年の1月に、この地域で市から土地を購入しました。購入を申し出た時に、火葬場の候補地があることをどうして教えてもらえなかったのですか。

4箇所には絞られていない段階で、議会、区長会、笠原審議会などへ報告させていただきましたが、それぞれの区によって周知の仕方も異なり、ご存じない方もあったことは承知しています。火葬場の候補地としては、検討の途中であり、この情報だけ取り出して個々に詳しく説明をするという状況にはなっていませんのでご理解をお願いします。

○質問 現火葬場のアクセス道路についての説明で、北に抜ける道路のルートが不自然に感じます。用地買収などして直接幹線道路に接続することは検討されなかったのですか。

ご指摘の道路は坂道になっているため、ここに進入路を接続すると道路構造上危険性があること、また住宅団地を通らないルートということで、北へ抜けるよう考えたものです。なお、道路の拡張については、関係する地権者と長瀬町との関係もあり、断念したものです。

○質問 説明に際しての資料が不足していませんか。入口はどこになるのか、また外からの

見え方や建物の大きさ、池とはどのようなものなのか、道路に関しても通行車両はどの程度予測しているのかなど、もう少し詳しく説明していただきたいです。

入口は生コン事業所の下の入り口の反対側を検討しています。また造成の高さは、道路に対して10メートル程の高さを設定し、緑地を配置して周囲の自然と調和した形をとりたいと考えています。こうした大規模な造成を行う際は、雨などへの対応として調整池を作ることになっていますので、周囲の自然と調和する池を造るよう検討しています。多治見白川線は、県道ですので、県と協議しながら進めていきたいと考えます。なお、右折車線はすでにありますので、右折信号の設置について、警察と協議していくことになります。通行車両については、現在、年間約1000体の火葬を行っていますので、多くても1日当たり100～200台程度を想定しており、火葬の関係車両でそれほど渋滞するとは考えていません。

建物の大きさについては先進地等の事例から、1階ないし2階建てを想定しています。